

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：24403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24792580

研究課題名(和文) 要介護高齢者を支える同居家族の日中留守にすることによる心情

研究課題名(英文) Feelings Related to Daytime Absence among Family Members Living with Care-Needing Elderly People

研究代表者

深山 華織 (FUKAYAMA, KAORI)

大阪府立大学・看護学部・助教

研究者番号：40613782

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は、家族の仕事をしながら介護をする生活に対する心情を明らかにすることである。研究方法は、就労しながら要介護高齢者を介護している家族9名を対象に面接調査を行い、質的記述的に分析した。対象者はすべて女性で、平均年齢は59歳であった。家族の要介護高齢者との生活に対する心情として【今の生活に余裕がない】【不測の事態の発生への不安】、仕事と介護に対する心情として【もっと介護が楽になって欲しい】【周りのサポートのおかげで安心】【仕事を続ける意義を感じている】など9カテゴリーが抽出された。以上より、家族は今の生活に追われ不安を抱えながらも、仕事への満足感や周囲のサポートによる安心感を抱いていた。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted to clarify family members' feelings about life combining work with nursing care. We conducted interviews of nine people who worked and cared for their elderly family members in need of nursing care. Results were analyzed in a qualitative and descriptive manner.

All interviewees were women, with mean age of 59 years. Nine categories were extracted, including the following: [No room in my present life] and [Anxiety over the occurrence of unexpected events] as their feelings for life with their elderly family members in need of nursing care; and [Hope that nursing care becomes much easier], [Feel easy with the support of people around me], and [Feel the importance of continuing work] as their feelings for work and nursing care. Results revealed that family members had a sense of satisfaction with work and security from support from people around them, despite worries and pre-occupation with life activities.

研究分野：在宅看護

キーワード：家族介護者 日中独居 要介護高齢者 家族支援 訪問看護

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国では少子高齢化や核家族化に伴う世帯構造の変化が生じており、要介護者のいる世帯の家族の介護力は弱く、脆弱な家族形態の世帯が増える傾向にある。要介護者と同居している主介護者は、男女ともに 50～60 歳代が最も多く（平成 21 年度国民生活基礎調査）、約半数が仕事を継続している（第 5 回中高年縦断調査）。これらのことから、家族の就労などのために日中ひとりで過ごす要介護高齢者（以下、日中独居高齢者）の存在が推測される。

本研究者の先行研究（深山，2011）で、同居家族の就労のため日中独居となる要介護高齢者の不安を生じさせる事柄とその対処を明らかにした。介護を担う家族が安心して就労するためには、日中独居高齢者の不安を緩和するための支援の必要性が示唆された。

一方で、看護・介護を理由とする離職率が年々増加傾向にある（就業構造基本調査，2007）。生活スタイルや生き方が多様化してきている家族が日中独居高齢者の療養生活を支える上で、家族自身も生活の質を維持・向上することが重要であると考えられる。そのため、同居家族が捉える仕事をしながら介護をする日中独居高齢者との生活について明らかにし、家族への支援についても検討していく必要があると考える。

そこで、要介護高齢者を支える同居家族の仕事をしながら介護をする生活に対する心情を明らかにすることで、日中独居高齢者とその家族の双方の生活への支援のあり方を見出すことができると考える。

2. 研究の目的

要介護高齢者を支える同居家族の仕事をしながら介護をする生活に対する心情を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 研究対象者

近畿圏内の訪問看護ステーション 6 施設において訪問看護を利用している要介護高齢者の同居家族 9 人。家族は仕事をしながら介護をしている主介護者で、次の条件を満たす者とした。心身の健康状態が安定している者、言語的コミュニケーションが可能な者、日中独居高齢者が終末期の状態でないこと。

また、研究協力の同意が得られた訪問看護ステーションの管理者により、本研究の条件を満たす家族を選定し、紹介された家族と日中独居高齢者から研究協力へ同意の得られた者を研究対象者とした。

(2) データ収集方法

半構成的面接法とした。対象者のプライバシーの確保できる場所で同意を得て、会話内容を IC レコーダーに録音した。

質問内容は、家族と日中独居高齢者の生活状況、仕事をしながら介護をする生活に対する思いと、その理由、日中独居高齢者への思いと、その理由、看護師やサービス提供者へ望む支援と、その理由である。

(3) 分析方法

面接終了後、録音記録を基に逐語録を作成した。逐語録から、要介護高齢者を支える同居家族の仕事をしながら介護をする生活に対する心情について表現している内容を抽出し、意味内容が損なわれないよう簡潔な一文で表現し、コード化した。類似するものを集めて名称をつけ、サブカテゴリー、カテゴリー化した。分析過程においては、信頼性・妥当性を高めるため、在宅看護学領域の専門家からスーパーバイズを受けた。

(4) 倫理的配慮

研究協力依頼において、訪問看護ステーシ

ン管理者に対し，研究の趣旨と倫理的配慮について口頭と文書で説明し，署名をもって研究協力への同意を得た．さらに研究対象者（家族）および日中独居高齢者に対して，面接調査実施前に研究の趣旨と倫理的配慮について口頭と文書で説明し，署名をもって研究協力への同意を得た．そして面接は，家族と日中独居高齢者の都合に合わせて調整し，心身の状態を確認しながら実施した．なお本研究は，大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した．

4．研究成果

(1) 対象者の概要

対象者はすべて女性で，平均年齢は 59.3 ± 7.3 歳であった．日中独居高齢者との続柄は，長女 6 人，妻 1 人，嫁 2 人であった．就労の形態は，常勤 6 人，非常勤 2 人，自営業 1 人であった．留守にする平均時間は，週 4.6 日，1 日 9.0 時間であった．

日中独居高齢者は，男性 2 人，女性 7 人で，平均年齢は 84.1 ± 6.6 歳であった．日中独居高齢者の主疾患として，循環器疾患 4 人，運動器疾患 2 人，難病 2 人，脳血管疾患 1 人であった．日中独居高齢者の要介護度は，要介護 5 が 3 人，要介護 4 が 2 人，要介護 3 が 3 人，要介護 2 が 1 人であった．

(2) 家族の仕事をしながらか介護をする生活に対する心情

家族の仕事をしながらか介護をする生活に対する心情として，9 カテゴリー，47 サブカテゴリー，226 コードが抽出された（表 1）．

以下，カテゴリーは【 】, サブカテゴリーは < > で示す．

表 1 家族の仕事をしながらか介護をする生活に対する心情

カテゴリー	サブカテゴリー
今の生活は心に余裕がない	常に日中独居高齢者中心の生活に拘束感がある
	仕事をせず家で介護ばかりではつらい
	自分の自由な時間がない
	自分の心身の休息時間が欲しい
	疲れていて自分のことはあるそかになる
不測の事態の発生への不安	日中独居高齢者の体調が悪いと仕事でも心配
	ひとりのときに転倒して骨折しないか心配
	ひとりのときに事故が起きると危ない
	日中独居高齢者がひとりでできないことへの対応が大変
生活に見通しがなく不安	日中独居高齢者の活動が制限される方が安心
	今の生活がいつまで続くのかと嫌になる
	日中独居高齢者の状態が悪くなったらどうなるのか心配
日中独居高齢者らしく元気に家で過ごして欲しい	日中独居高齢者の状態が悪くなったら仕事を辞めざるを得ない
	体調が安定し認知症がないからひとりで過ごせる
	体調が回復して好きなようにさせてあげたい
	ひとりで家に居るより通所施設へ行く方が良い
もっと介護が案になって欲しい	もっときちんと見てあげたい
	施設ではなく在宅で看られて良かった
	日中独居高齢者の話を聴くことは大事
	他の家族が少しでも手伝ってくれと助かる
仕事と介護の調整は大変	自分の要望や相談は我慢せずに言わないといけない
	働いている人が使いやすい制度になってほしい
	仕事と介護の予定を調整しないとけない
	サービス利用や受診の際の調整に困る
周りのサポートのおかげで安心	自分以外の人には迷惑を掛けたくない
	職場の人の目が気になる
	サービスを調整できているから安心
	今受けているサービス内容に満足している
	体調が悪いときに適切に対応してくれるから助かる
	留守中の日中独居高齢者の様子を連絡/メールで分かること安心
仕事を続ける意義を感じている	訪問看護師はプロとして親身に対応してくれるから信用している
	日中独居高齢者が事情を分かってくれるから助かる
	理解のある職場だから両立できている
	状況を分かってくれる人が職場や近所にいるのは助かる
仕事と介護とで自分のことで気持ちを切り替える	必要な医療や介護サービスを受けるために仕事を続けたいといけない
	仕事をしていると楽しい
	自分のために仕事をしている
	仕事は続けたい
	仕事に行っている方が日中独居高齢者と良い関係になれる
	仕事では介護のことを考えなくて済む
仕事と介護とで自分のことで気持ちを切り替える	急に体調が悪くなったときは仕事を休んで帰宅せざるを得ない
	仕事を介護の両方を行うことは仕方がない
	ひとりのときに急変しても仕方がない
	家の掃除が行き届いてなくても仕方がない
	自分で楽しみを作っている
	休息をとるようにしている
他の家族の助けを期待しない	

家族の日中独居高齢者との生活に対する心情

要介護高齢者を支える同居家族の日中独居高齢者との生活に対する心情として，【今の生活に余裕がない】【不測の事態の発生への不安】【生活に見通しがなく不安】【日中独居高齢者らしく元気に家で過ごして欲しい】の 4 カテゴリーに分類された．

【今の生活に余裕がない】は，<常に日中独居高齢者中心の生活に拘束感がある><自分の自由な時間がない><疲れていて自分のことはあるそかになる>など 5 サブカテゴリーで構成された．

【不測の事態の発生への不安】は，<日中独居高齢者の体調が悪いと仕事でも心配><ひとりのときに転倒して骨折しないか心配>など 5 サブカテゴリーで構成された．

【生活に見通しがなく不安】は、＜今の生活がいつまで続くのかと嫌になる＞＜日中独居高齢者の状態が悪くなったら仕事は辞めざるを得ない＞など2サブカテゴリーで構成された。

【日中独居高齢者らしく元気に家で過ごして欲しい】は、＜体調が回復して好きなようにさせてあげたい＞＜ひとりで家に居るより通所施設へ行く方が良い＞＜施設ではなく在宅で看られて良かった＞など6サブカテゴリーで構成された。

家族の仕事と介護の両立に対する心情

要介護高齢者を支える同居家族の仕事と介護の両立に対する心情として、【もっと介護が楽になって欲しい】【仕事と介護の調整は大変】【周りのサポートのおかげで安心】【仕事を続ける意義を感じている】【仕事と介護と自分のことで気持ちを切り替える】の5カテゴリーに分類された。

【もっと介護が楽になって欲しい】は、＜他の家族が少しでも手伝ってくれると助かる＞＜自分の要望や相談は我慢せずに言わないといけない＞＜働いている人が使いやすい制度になってほしい＞の3サブカテゴリーで構成された。

【仕事と介護の調整は大変】は、＜仕事と介護の予定を調整しないと行けない＞＜サービス利用や受診の際の対応に困る＞など4サブカテゴリーで構成された。

【周りのサポートのおかげで安心】は、＜サービスを調整できているから安心＞＜体調が悪いときに適切に対応してくれるから助かる＞＜理解のある職場だから両立できている＞＜状況を分かってくれる人が職場や近所にいるのは助かる＞など8サブカテゴリーで構成された。

【仕事を続ける意義を感じている】は、＜必要な医療や介護サービスを受けるために仕事を続けたいといけないう＞＜仕事をしていると楽しい＞＜仕事に行っている方が日

中独居高齢者と良い関係でいられる＞など5サブカテゴリーで構成された。

【仕事と介護と自分のことで気持ちを切り替える】は、＜仕事中は介護のことを考えなくて済む＞＜仕事を介護の両方を行うことは仕方がない＞＜自分で楽しみを作っている＞などの8サブカテゴリーで構成された。

(3) 家族の仕事しながら介護をする生活に対する心情の特徴と家族への支援
家族の仕事しながら介護をする生活に対する心情の特徴

家族は、仕事をしながら介護を続ける生活に【仕事と介護の調整は大変】【もっと介護が楽になって欲しい】と感じていた。本研究の対象者である家族が介護している日中独居高齢者は高齢で、循環器疾患や難病などを抱え、要介護度の高い者が多く、日常生活援助や医療管理を必要としている者であった。訪問看護を利用している家族介護者は、要介護者の年齢が高い場合に身体的負担が高く、医療処置の必要な場合に心理的負担が高い（医療的ケアを要する要介護高齢者の介護を担う家族介護者の実態と支援方策に関する調査研究事業報告書、2012）。これらから家族は仕事と介護に日々追われ、心身の負担感を抱えていると考える。

そして家族は【今の生活に余裕がない】と感じていた。大宮（2012）は、仕事をしながら介護を担うことになった家族は次第に役割拘束による心身の負担や自分らしく過ごす時間の縮小を自覚すると述べており、本研究でも同様の特徴がみられた。これは家族が仕事をしながらも生活の中心は日中独居高齢者であり、自分のペースで物事を進められないことから拘束感や自分の時間が確保できないことによって生じていると考える。

また、家族は仕事のため留守にすることで、日中独居高齢者が体調の悪化や転倒などの【不測の事態の発生への不安】を抱いていた。

これは日中独居高齢者がひとりで過ごすときに不安を生じる事柄（深山，2015）と同様であり，日中独居高齢者の体調悪化や身体機能の低下が家族と日中独居高齢者双方の不安と関連していると考えられる．特に家族は留守中の日中独居高齢者の状態が分からないため不安が強いと考える．

さらに家族は今後の生活について【生活に見通しがなく不安】と感じていた．この心情が生じる背景には日中独居高齢者が今後，さらに体調の悪化や身体機能・認知機能の低下していくことが予測されることがある．

一方で，家族は訪問看護師や他のサービスから受ける適切な対応，職場や近隣の理解があることなど【周りのサポートのおかげで安心】と感じていた．そして，家族は【仕事を続ける意義を感じている】と感じており，これは仕事へのやりがいや社会的役割、経済的理由が背景にあった．また，家族は生活に追われる日々ではあるが，意識して【仕事と介護と自分のことで気持ちを切り替える】ことをしている．これらから家族は仕事をすることによって気分転換を図り，満足感が得られ，介護への意欲が出ると思われる．また，本研究の対象者はすべて女性であった．北野（1999）は，女性介護者は就労により自己実現をすることで精神状態が安定し，要介護者との良好な関係を築くことができると述べており，家族は仕事によって介護から離れられる時間を確保することで，心の安定を図ることができると考える．

しかし，このように家族は留守中の周囲のサポートによる安心感を得て，自身で気持ちの切り替えを行っているが，日中独居高齢者はひとりの時間があるため【不測の事態の発生への不安】が解決されることはない．そしてサポートを受ける以外の時間は家族が介護を担っていることから【仕事と介護の調整は大変】【もっと介護が楽になって欲しい】【今の生活に余裕がない】の心情は常に抱え

続けるものであると考える．

仕事をしながら介護をする家族への看護への示唆

家族の抱く【不測の事態の発生への不安】や【生活をしながらの生活に見通しがなく不安】の心情の背景には，日中独居高齢者の体調悪化や身体・認知機能の低下があった．そこで，訪問看護師は日中独居高齢者の体調管理を行い，体調悪化時の適切な対応や身体・認知機能の維持を行うことが必要である．そして家族は留守中の日中独居高齢者の状態が分からず不安を抱いており，家族へ連絡ノートや電話を用いて伝えることは安心感へとつながると考える．春日ら（2012）は連絡ノートの活用は、不在の家族には見えにくい訪問看護のケアを「見せる」場であると述べており，普段顔を合わせることの少ないサービス提供者に対する信頼感へもつながる．

そして，家族は【周りのサポートのおかげで安心】と感じており，適切な情報提供やケアマネジメントによって家族が安心して仕事を続けられることへとつながると考える．また，介護者の精神的健康を良好に保つためには，道具的サポートによる負担軽減が必要であり，情報の活用についての確認や個々のニーズに即した情緒的サポートが重要である（森，2008）．本研究の家族も訪問看護師が相談に乗ってくれることが助かったや頑張りを褒めてくれて嬉しかったと述べており，家族の不安や心配に感じていることに共感し，仕事と介護を両立する家族を労うなど，気持ちに寄り沿った関わりが重要であると考えられる．

（4）まとめ

本研究の成果から，仕事をしながら介護をする家族は日々の生活に追われ，不安を抱えながらも，仕事への満足感や周囲のサポートによる安心感を抱いていた．これらの不安は日中独居高齢者の体調悪化や身体機能の低

下が背景にあり，サポートのない時間に仕事や介護をしている家族の不安は常にあるものである．そのため，訪問看護師は日中独居高齢者の体調管理や身体機能の維持への支援を行い，仕事と介護を両立できるためのケアマネジメントや情緒的サポートを行っていく必要がある．

また本研究の対象者はすべて女性であったが，男性介護者は女性介護者と比較して孤独しており，専門職に相談や支援を求めることが少ない(石橋，2008)．今後，仕事をしながら介護をしている男性介護者にも着目し，仕事と介護を両立するための支援のあり方についても検討していく．

<引用文献>

厚生労働省：平成 21 年度国民生活基礎調査，2009．

厚生労働省：第 5 回中高年縦断調査，2010．

総務省(2007)：就業構造基本調査，2007．

財団法人日本訪問看護振興財団：医療的ケアを要する要介護高齢者の介護を担う家族介護者の実態と支援方策に関する調査研究事業報告書．2012，1-95．

大宮朋子：在宅療養者を介護する家族介護者における介護認識プロセスと社会活動の変容-就労と余暇活動に着目して．日本赤十字看護大学紀要，26 巻，2012，20-29．

深山華織，中村裕美子：同居家族の就労により日中独居ですごす要介護高齢者の不安とその対処，老年看護学，査読有，第 19 巻 2 号，2015，75-84．

北野和代，川村佐和子，数間恵子：女性介護者の就業と介護の両立に関する検討．日本難病看護学会誌，3 巻 1～2 号，1999，53-59．

春日広美，石垣和子：日中独居要介護者の家族に対する訪問看護師の連絡ノートの活用に関する研究，家族看護学研究，17 巻 2 号，2012，64-74．

森：在宅高齢者の主介護者が求めるサポートの充足状況と精神的健康の関連，介護福祉学，15 巻 1 号，2008，31-40．

石橋文枝：在宅看護における家族介護者の対人認知に関する研究．藍野大学紀要，16 巻，2002，73-78．

5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

深山華織，中村裕美子：同居家族の就労により日中独居ですごす要介護高齢者の不

安とその対処，老年看護学，査読有，19 巻 2 号，2015，75-84．

[学会発表](計 6 件)

中村裕美子，深山華織：在宅高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」への継続参加の評価，第 34 回日本看護科学学会，2014 年 11 月 29 日～11 月 30 日，名古屋国際会議場(愛知県)．

田端支普，岡本双美子 他 6 名，5 番目：病棟看護師の退院支援に関する認識の変化－患者の退院後に Happy Life 通信を受けて－，第 4 回在宅看護学会学術集会 2014 年 11 月 15 日，東邦大学看護学部(東京都)．
春岡登志子，深山華織，他 6 名：訪問看護師からの状況報告による病棟看護師の退院支援への効果－患者の退院後に Happy Life 通信を受けて－，第 45 回日本看護学会－在宅看護－，2014 年 10 月 2 日～3 日，山形テルサ(山形県)．

Fumiko Okamoto, Nami Ohashi, Toshiko Haruoka, Kaori Fukayama 他 4 名：Changes in unit nurses' discharge support before and after intervention using feedback reports about the patient's life-style at home after discharge，第 35 回国際ヒューマンケアリング学会，2014 年 5 月 24 日～5 月 28 日，国立国際会館(京都府)．

中村裕美子，深山華織：在宅高齢者の認知機能低下予防教室への経年参加による認知機能の変化，第 72 回日本公衆衛生学会総会，2013 年 10 月 23 日～25 日，三重県総合文化センター(三重県)．

中村裕美子，深山華織，牧野裕子：地域高齢者の認知機能低下予防のための集団プログラムへの参加による認知機能の効果，第 32 回日本看護科学学会学術集会，2012 年 11 月 30 日～12 月 1 日，東京国際フォーラム(東京)．

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

ホームページ等 なし

6．研究組織

(1)研究代表者

深山 華織(FUKAYAMA, Kaori)

大阪府立大学大学院看護学研究科・助教
研究者番号：4 0 6 1 3 7 8 2

(2)連携研究者

中村 裕美子(NAKAMURA, Yumiko)

大阪府立大学大学院看護学研究科・教授
研究者番号：1 0 2 9 9 2 6 6